SHINCLUB 141

(株)辰　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　tel/03-3486-1570　fax/03-3486-1450

鶴見の家　撮影：矢野紀行

今月のトーク/monthly talk

子供

師走に入りました。大きな災厄があった今年、被災地の復興は遅々として進みません。子供たちを取り巻く環境には、まだまだ厳しいものがあります。

東北大震災の被災地へ多くの支援が寄せられていますが、今回は被災地に赴き、仮設住宅で暮らす人たちの写真を撮ることで、彼らの心に少しでも役に立ちたいという取り組みをしている団体をご紹介しましょう。

その名も「PHOTOHOKU」（フォトホク）。http://www.photohoku.org このプロジェクトは、外国人カメラマンによる子供の写真撮影を行う「Tokyo　Kids　Photo」（代表:吉川優子氏）の、ブライアン・スコット・ピーターソン、アリー・クウェッセルら外国人カメラマンが中心となって、震災後の仮設住宅を訪れ、被災した子供たちや家族をポラロイドで撮影し、（フィルムは富士フィルム提供）アルバムにしてあげるというものです。

地震、津波でそれまでの家族の人生の記録、アルバムを失ってしまった人々は、深い喪失感に包まれています。「泥の中から見つけ出したアルバムを洗浄し、元の持ち主に返す」というボランティアが話題になりましたが、被災した人たちは、今の自分たちを記録するすべもありません。報道の取材対象としてではなく、自分たちだけの写真を撮影してもらえる機会を得て、それは喜んでくれるということです。撮影だけでなく、出来上がった写真を見ながら、これまで心に留めてきた思いをカメラマンや吉川さんら第三者に語ることで、笑顔を取り戻していく人もいます。特に子供たちは、小さいほど成長が早く、赤ちゃんの頃の写真をなくしてしまった家族は、この新たな記念アルバムが宝物になります。

また 1 度撮影するだけでなく、その次に訪れるときに中古のデジタルカメラを渡して自分たちを撮影してもらい、次回訪れたときにプリントアウトしてあげるという具合に、定期的に現地の人たちを訪れるのです。

「撮影させてくれた人と知り合いになって、その人の人生と深く関わるようになり、余震があったときなどは、『あの人は大丈夫だろうか』とその顔を思い浮かべたりして、ただ遠くの問題ではなくなったんです」という吉川さん。

こういった活動をインターネットで英文テキストで紹介したり、動画 Youtube にアップして、すでにワシントンポスト紙（米）やテレグラフス紙（英）などの海外メディアで取り上げられています。そしてドイツの教会から、旅費など経費の寄付の申し出があったり、「アルバムを集めるプロジェクトを行いたい」という学生からメールが来たり、と活動はグローバルに広がっています。

「カメラを寄付したいという外国の方からの申し出もあったのですが、送料を考えたら大変。それより日本人は、世界でも類を見ないほどカメラ好きな国民です。ご自宅の使わなくなってしまったデジカメ（説明書と充電器含む）を寄付していただければありがたいですね。年内の 25 日に表参道でイベントを企画しています。中古カメラがある方は、ぜひご協力ください」とのことです。

お問い合わせは、
yuko@photohoku.org まで

TOLDA

「建物の地域性を重視したテナントビル」

渋谷から原宿にかけて、明治通りの東側に並行して走るキャットストリート。若者に人気のファッションや雑貨の店が建ち並ぶこの遊歩道は、もとは「渋谷川」という川の暗渠である。東京オリンピックの頃に蓋をされたが、建物のオーナーは、この川の周辺の景色に愛着があった。

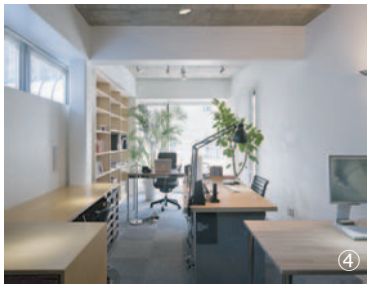
私は、建物は「ここでしかありえない」という場所の必然性がある、といつも思っている。ここでは、「渋谷川」という思い出があって、「川」を喚起させるイメージが成立する。建物の名前は『TOLDA』ーイタリア語で「甲板」という意味である。「川」というイメージにつながり、オーナーの街への思いを表現できれば、と提案した。

テナントビルは不特定多数のテナントに対し、設計者側としてあまり個性的なデザインを押し付けるわけにはいかない。テナントの個性が活かせるキャンパスであればと思う。建物が強烈な印象では困る。色づけも主張しすぎてはならない。テナントが入って、初めてその雰囲気が動き出すことが必要だ。

構造は、敷地が小さいのでＲＣ造よりもＳ造とし、天井をそのまま仕上げとして使えるよう、床板は在来のコンクリートスラブとした。意匠的には、仕上げ、色、空間等を対比的に表現することにより、お互いがより効果的に浮かび上がることを意図した。

例えば、1、2 階の壁は、ガラス張りにしてなるべくオープンにする一方、3 階はオフィス利用も考慮してクローズに。色使いも、1,2 階は、外壁の帯部分の色は黒、3 階は白と変えている。S 造では、仕上げ材の仕様がガラスとスチールサッシ、金属パネルとクールになりがちだが、建物床にウッドデッキを採用することで、ウェットな部分を生み出している。エントランスの漆喰の壁と外壁の帯の鉄板も色と質感を対比させている。3 階のオフィスは、われわれの事務所が入居することがあらかじめ決まっていたので、照明器具に内装、仕上げ等、に新しいものを取り入れてみた。ストリート側の公園を見下ろしながら、オープンなデッキスペースから、エッジな若者文化の発祥するこの場所の活力を楽しみたい。

（溝口健二氏　談）



所在地：渋谷区
構造：S造
規模：地上 3 階
用途：店舗併用住宅
設計：溝口健二／建築設計計画
竣工：2011 年10月
施工担当：柴田
撮影：上田宏

①全景。1、2 階はスケートボードファッションブランドの「ELEMENT」が入っている②北側夜景③2、3 階へのアクセスとなる中央の階段や、手すりは軽快な溶融亜鉛メッキのスチール製で川辺に浮かぶ船を想起させる④3 階事務所

鶴見の家（M 邸）

「大きなルーバーのある住宅」

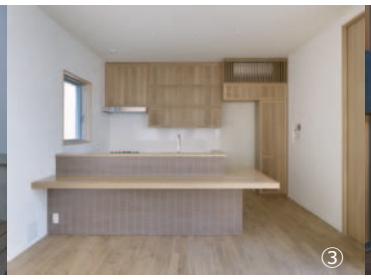
建物は、鶴見駅から徒歩 1 分、商店街を抜け、クリニックなどが並ぶ一角にある。これまで、自宅とは別に駅の近くに工房を借りていたオーナーは、採光の悪い木造住宅であった自宅の建て替えにあたり、職住一体の建物を選択肢として考えられるようになった。また、付近は大きなマンションが隣接し、この建物の建築の際にも、当初はマンションを併用させる案が検討されたが、オーナーの希望により「家族のためだけの住居」として、1 階にオーナーの工房とテナント、2、3 階をオーナーの自邸とする住宅に落ち着いた。

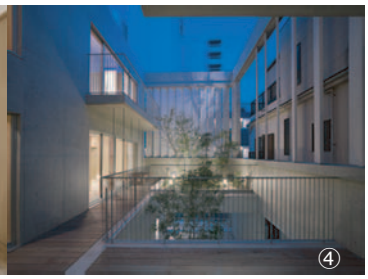
建物敷地は細長い形状で、奥側に隣接するマンションはかなり高いものの、面しているのが非常階段と駐車場、と与件としては幸運であった。しかしながら建物の密集地域であることには変わりはなく、通風と採光に留意した建物が計画された。

建物のアプローチから奥へと続く中庭は吹き抜けとし、2 階もまたデッキで中庭を取り囲むことで、明るさと空気の流れを確保している。さらに屋上緑化を施し、アスロックのルーバーで囲まれた建物の中に、緑豊かな空間を生み出した。周囲の視線を気にすることなく、洗濯物を干したり、家族の憩いの時間を楽しんだりするスペースとして、機能する。

室内は、塗り壁に水性塗料、無垢のフローリングや麻のカーペット、畳など、自然素材を重視した内装材を用いており、収納もふんだんに設けられている。芝浦工大で師事した曽根先生の下、同期の小松豪氏、ランドスケープデザインの高橋裕美氏との協働で無事仕事を終えられたことを感謝したい。　（高橋正嘉氏　談）

所在地：横浜市鶴見区
構造：RC造
規模：地上 3 階
用途：専用住宅
設計：曽根幸一／環境設計研究室、小松豪／小松豪一級建築士事務所、髙橋正嘉／ハイランドデザイン一級建築士事務所
ランドスケープ：高橋裕美
竣工：2011年10月
施工担当：内海
撮影：矢野紀行





①1階エントランスを建物奥から臨む。背丈の高い　の木や芝生を植え込んだアプローチは、採光、通風に優れたスペース②2階LDK側より、デッキテラスと吹き抜けの庭を臨む。前面道路と隣接する家屋側にアスロックのルーバーを設置し、視線をさえぎる③キッチンは、岐阜の家具メーカー「MONDO」のオーダーキッチン④2階夜景。中庭の植栽への照明の明るさが柔らかな雰囲気をかもし出す、同居される母上もお気に入りであった。

街と建築家　　溝口健二／溝口健二建築設計計画

キャットストリートの「TAURUS」ビル。
DKNY の旗艦店「DKNY キャットストリート店」、オークリーの日本初直営旗艦店「O-STORE Harajuku」、バートンスノーボード日本初直営店「BURTON STORE 」が入った。

Kenji Mizoguchi

溝口　健二氏　／溝口健二建築設計計画　　撮影：アック東京

今月は、「神宮前バルカ（La Barca）」、「神宮前 335」、「神宮前トーラス / TAURUS」、「神宮前新中ビル」、そして今月ご紹介した「TOLDA」など、神宮前で数多くのテナントビルの設計を手がけている、溝口健二さんにご登壇いただきます。弊社では、2003 年「三ツ木ビル（府中市」の施工を担当させていただいております。

ー早稲田を卒業された後は、東孝光さんの事務所に入られて、独立されてから、イタリアに留学されていますね。
溝口：独立後、1989 年からしばらく中東やヨーロッパ各地の建築を観て廻りました。帰国してみると、景気はバブル崩壊の真っ最中。結婚して 3 年、妻も後押ししてくれたこともあり、34 歳の時に、イタリア政府給費留学生として 2 年間、ローマ大学に留学することにしました。
　イタリア人って子供が好きですね。半年間、家族に先行して一人で現地に行って準備していたのですが、それまでわりとよそよそしかった近所の人たちが、妻と生まればかりの子供が来たら、それは親切にしてくれまして、コミュニケーションの輪が広がりました。日本はそれに比べて、子供に不親切だなぁ、と思いますよ。地方に行けばまた、違うかもしれませんが。

「古来から都市に集合として住むことに慣れ親しんでいるイタリア人にとって町の広場や通りといった公共の空間はコミュニケーションの場である。都市を一つの家と見なせば広場や路地は彼等にとって自分達の家の延長である中庭であったり、居間だったりするのだろう。時代の流れの中で建物に囲われながら自然発生的にできていったイタリアの広場は生活の一部として存在する活き活きとした空間だ」と溝口さんは述べている。

溝口：帰国して、また事務所を再開して、軌道に乗ってきたのは、40 代くらいでしょうか。特に自分の領域を決めてはいませんが、周囲の人も 50 代くらいからだんだん、専門が決まってくるようなところがありますね。住宅もやりますが、僕の場合は比較的テナントビルの仕事が多いです。「住宅」は施主家族の要望から、どうしても内部空間を重視することになりますが、テナントビルは、外的要因からアプローチすることが多いですね。隣とどうつながっていくか、さらに街の中で建物がどう折り合いをつけるかが大事なのです。歴史的にも、環境的に街とどうつながるか、特に、そこで暮らし、商売をしていく人達にとって、街を盛り上げる意識を持つことが求められます。
　建築家もまた、社会とコミットしている存在であることを忘れてはなりません。彫刻や絵画などの純粋芸術作品をつくるアーティストとともちがって、経済とは切っても切れない関係があるわけですし、独立して「建築家」という存在ではないと思いますね。

　イタリアのように、街とは人が住んでいる賑わいがあり、公園があり、近くのバール (イタリア語で バーのこと）で飲んでいる人もあり、オペラハウスもあり、という雑多なものが本来の姿だと思います。しかし、今の日本は住むところと働くところ、遊ぶところが離れていて、それが地方の疲弊にもつながっていると感じます。「遊んだら、5、6 分で自宅に帰れる」ー理想的な街はそういうものだと思います。そういう意味で「神宮前」は不思議な街ですね。住宅街に商業地域が接近していて、公園もある、学校もある、文化施設もある。地価は、高いけれども、そういう意味で理想的な場所ですね。
　特に、子供が街にいるということは、ほんとにいいんです。
　子供は未来に繋がる存在であり、子供の声が聞こえるだけで、街は、その無垢な存在で活力があふれます。子供が健やかに暮らすためには、子育てをするのにいい環境でなくてはならない。
　この事務所の近くのキャットストリートに公園があるのですが、いろんな国の子供たちが来て結構賑やかですね。仕事の合間に癒されます。

ー本日は、どうもありがとうございました。

「土地固有の歴史と連続性を持つ建物をつくっていきたいですね」

溝口　健二

1959 年　佐賀県生まれ
1983 年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1986 年 ～ 1989 年　東孝光建築研究所入所
1994 年 ～ 1996 年　イタリア政府給費留学生として
　　ローマ大学留学。
1996 年　帰国後、溝口健二 / 建築設計計画設立
2002 年～ 有限会社溝口健二 / 建築設計計画 取締役

船の甲板を思わせる、事務所の外側のデッキにて。
神宮前にあるオフィスからの移動は、愛用の自転車が活躍する。

「第1回ZEN社一丸大運動会」　2011年11月13日　於：井の頭恩賜公園

11 月 13 日、ＺＥＮグループ全社による初めての運動会が開催されました。ＺＥＮホールディングス、タケダサービスカンパニー、オアフクラブカンパニー、西洋ハウジング東京支店、池田建設東京支店、ライフポート西洋、ユニホー東京支店、 麦島建設東京支店、トヨダ工業、そして辰の１０社により、晴れ渡った秋空の下、楽しい競技が繰り広げられました。この数ヶ月、仕事が終わってから、準備に奔走された実行委員会のメンバーに感想をよせてもらいました。(写真撮影：神谷渚)

開会宣言ー森村実行委員長

入場行進

「11 月 13 日は グループ全体の潮目が変わった日」

ZEN 社一丸大運動会　実行委員長
㈱辰　代表取締役　森村和男

今年 2 月、ZEN グループ内の社長会で、発足したばかりの弊社のフットサル部の対抗戦の話をした。若手が多数参加、年配の社員も応援に駆けつけ、「会社として盛り上がったので、ぜひグループ各社も参加されては」と提案したところ、麦島会長より「以前はユニホー名古屋本社で運動会を毎年やっていた。ぜひ『運動会』をやろう」という言葉をいただいた。8 月下旬、ようやく会場を確保でき、プロジェクトはスタートした。

各社から 2 名ずつ、プロジェクトのための精鋭が選抜されて、毎週月曜日夜 6 時から 8 時まで、ZEN 本社に集まり、自分たちで企画を練り始めた。私は、大きな流れが崩れないように、個々に手を加えることなく、プロ野球のオールスター戦の監督のような役目を務めた。例えば、対抗リレーは西洋ハウジング、マラソンは池田建設など、各社で担当を決め、時間配分や対戦方法、盛り上げ方など全てを自分たちの手作りで作り上げていった。欲を言ったのは、「うちは現場監督の集まりだから、エリート社員のいる他社に○× クイズでは負けても綱引きだけは負けるな」ということくらいだろうか。

当日は、雲一つない快晴、これ以上はないという運動会日和。スタッフは朝 5 時には会場の井の頭恩賜公園に集まり、設営も整った。開始のファンファーレがなった時には、「ああ、無事、開催にこぎつけられてよかったな」と入場行進を見つめながら感慨無量。

結果は、この 3 月、ZEN グループに参加したばかりの「池田建設」の古賀社長の次の言葉につきる。「この数年、表情にあまり元気がなかった社員たちが、今日はいい笑顔を見せてくれた」と･･･。嬉しかった。

終了後の社内アンケートでも、誰一人否定的な意見を述べるものはいなかった。

実行委員長としては、今回の運動会を大きく言えば、「ZEN ホールディングスの潮目が変わった日」と思いたい。上から言われるだけでなく、社員一人ひとりから自発的な動きが生まれ、チームワークと情熱が仕事に反映されるものと信じている。

綱引きは辰が優勝

歓喜する石井総務委員長

伝統の法被で応援する、窪田、中村

第 1 回 ZEN 社一丸大運動会　実行委員
競技委員長　オアフクラブカンパニー　藤巻満

前評判通り「綱引き」では、辰の圧勝でした・・・・。改めておめでとうございます。

「第 1 回 ZEN 社一丸大運動会」が、無事に開催され、順調に終えることができたのも､実行委員長を務められた、辰の森村社長の存在なしにはありえないことでした。

我々実行委員をまとめ、麦島会長や各社社長からの理解を得て頂いたり･･裏での相当のご尽力があったからこそ、我々委員ものびのびと携わることができました。

拙い競技進行でしたが、辰の皆様におかれましては、運動会を盛り上げて頂き、本当にありがとうございました。また第２回（？）で、お会いしましょう！

第 1 回 ZEN 社一丸大運動会　実行委員
総務委員長　㈱辰　石井秀耕

3・11 に東日本大震災が起こったときは「運動会どころではないのではないか？」と正直迷う日々が続きました。

しかし、5 月に被災地に行き、考えが変わりました。自然の破壊力には驚愕しましたが、同時に人の心強さや心深さを感じたからです。

正直開催して良かったと思っております。「たかが運動会、されど運動会」でした。「人間ってすばらしい！！」ということを正に感じられた 1 日でした。

マラソン 1600m 完走の麦島会長

デッドヒートを繰り広げる赤のユニホー選手と辰の高沢、+α君（マラソン）

勢いあまって、さあ大変（大玉送り）

一日 10 軒大八車（借り物競争）
お題は「一番元気なお年寄り」

優勝は、ユニホー、ZEN ホールディングス、麦島建設、トヨダ工業連合チーム。辰は 4 位でした

編集後記

・前号 141 号の p4「TOPIC&INFORMATION」でご紹介した、『(仮称) 新井 2 丁目 PJ　新築工事』上棟式の記事内で、「設計」を誤って「高木プランニングオフィス」と表記してしまいました。正しくは「タカギプランニングオフィス」です。関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

(株)辰 通信　Vol.141　発行日　2011年12月10日　　編集人：松村典子　発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10　TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450　E-mail：daihyo@esna.co.jp　URL :htt p ://www.esna.co.jp